

地域のために私ができること

秋田大学教育文化学部附属小学校 六年 米谷 祐穂

自宅のベランダから目を降ろすと、ピントの防護服を着た父が、今日も忙しそうに動きまわっている姿が見える。一階の診療所の駐車場で、発熱患者の方たちを診察しているのだ。新型コロナウイルスの感染拡大で、診療所の電話が鳴り止むことはない。

私は幼いころから、地域の人たちの診察を行っている父に憧れていた。中耳炎の子供や花粉症で毎年悩む人たち、耳が遠くなり、困って相談に来るお年寄りといった、多くの患者が耳鼻咽喉科に受診にやってくる。そして、どんな症状であっても、その一人ひとりに寄り添い、真剣に向き合う父の姿は輝いて見えた。幼稚園に通うころには、私は地域診療を行う医師になると決めていた。

体調が悪くなると、とても不安になる。私自身、熱がなかなか下がらなかったときには、何か大きな病気だったらどうしようかと、

ようと、悪い方に不安がふくらんだ。そんなとき、父は具体的に症状となぜ熱が上がるのかを分かりやすく説明してくれた。そのおかげで不安がおさまり、体調も良くなった気がした。こういった経験も「心を支え、体を治療する医師になる」という思いを強くさせた。

医師になるためには、もちろん継続して勉強をするためにも努力、計画性、実行力など様々なことが必要となる。しかし、私が目指すべき医師は、地域の人たちに心配事があったときに相談にのり、「心も支える」ことができる医師である。そのためにも医療の知識や技術、そして患者たちの話に耳を傾け、気持ちを理解する能力も身につけなければならない。

だから私は学校生活で、相手の立場に立って物事を考え、行動することを大切にしていく。学校の友達が話してくれる言葉をよく聞きながら、そのときの表情

や仕草、話し方をしっかりと観察し、状況を見てコミュニケーションをとることができるよう心がけている。また、これからは、年齢を問わず、様々な人たちと触れ合う機会を増やしていくことで、相手の「心」を聞きとり、相手の気持ちを受け入れられる「自分」というものの成長も必要である。

医師になることを現実のものとするために、ライフプランシートを作成した。そうすることで、やるべきことがより明確になり、自分が進学したい学校についても、詳しく調べることができた。ただ、学問にはたくさんのお金が必要だ。両親は「全力で応援するよ」と言ってくれている。目標に向かって一生懸命頑張ることで、感謝の気持ちを伝えていきたいと思う。そして、将来地域の人たちの健康を守る医師として働いて、社会に貢献したい。

米谷 祐穂 のライフプラン

将来なにになりたいか？

医師

その理由：

地域の人たちの心と体を支えるため

夢をかなえるまでのスケジュール

西暦(年)	年齢(学年)	夢をかなえるために努力すること	努力するために、なににお金がかかりそうか
2022年	2才(小1)	人との関わりを大切に 中学受験に向けて勉強	塾代 学校代
2023年	3才(中1)	秋大附属中へ入学 下くさんの本を読む 保育園や高齢者施設でボランティア	本代
2024年	4才(中2)	↓ ↓	
2025年	5才(中3)	高校受験に向けて勉強	
2026年	6才(高1)	秋田高校へ入学	
2027年	7才(高2)	北雄の翼 (アメリカ海外研修)に参加	参加費
2028年	8才(高3)	大学受験に向けて勉強	
2029年	9才(大1)	秋田大学医学部に 地域枠で入学	大学費 交通費
2030年	20才(大2)	基礎的・専門的な医学を学ぶ	
2031年	21才(大3)		
2032年	22才(大4)	↓	
2033年	23才(大5)	臨床実習をかんはる	
2034年	24才(大6)	↓ 医師国家試験合格	
2035年	25才	ひとり暮らしを始める 研修医として医師の基礎をしっかり学ぶ	勉強代 生活費
2036年	26才	↓	
2037年	27才	専門科の知識・技術を みかく	
2046年	36才	開業医として地域を支える	開業資金

○医療について知る
○見聞を広げる

心構え

○知識

○技術

※最後の行は、荷職の時にどうなっていたいか、自分で好きな年を入れてみましょう！